令和4年度　大阪府立交野支援学校四條畷校　第3回学校運営協議会　報告

1. 日時・場所	令和5年2月 27 日（月）午前10時00分から12時00分・交野支援学校四條畷校会議室	
2. 出席者	**【学校協議会委員】**	
	高塚　良則	元大阪府立学校長
	坪井　安嗣	四條畷市砂自治会長
	杉本　匡子	（社）るうてるホーム軽費事業部長
	加藤　美朗	関西福祉科学大学教授
	北口　信二	北河内東障害者就業・生活支援センター長
	坂田　雅子	大阪府立交野支援学校四條畷校 PTA 会長
	【事務局】	
	武田　幸造	准校長
	溝部　晃輔	教頭
	目良　孝	課長補佐
	筒井　大輔	中学部主事
	村上　智則	首席・高等部主事
	傍聴者0名	
3. 次第	（1）准校長あいさつ （2）学校教育自己診断アンケート分析結果について （3）令和4年度学校経営計画及び学校評価」評価（案）について （4）「令和5年度学校経営計画及び学校評価」（案）について （5）その他	
4. 報告	**学校教育自己診断アンケート分析結果について** 生徒用：「学校は楽しい」「先生が生徒を大事に思っている」「社会のルールを教えている」で「はい」が7割を超えた。教職員で生徒の人権を尊重する姿勢を大事にしてきたので、生徒にも伝わっていると捉えている。 保護者用：今年度 17 項目で上昇。特に「教職員の障がい理解、人権尊重の姿勢」が非常に上がった。学校の相談への対応が「分からない」という回答になっていることは課題。保護者への文書配付の電子化を検討していかなければならない。 教職員用：家庭との連携に対する項目は、肯定率9割以上。「保護者の相談に答える」87%。これが保護者用アンケートの「相談への対応」と数字が似通っている。教員側でも学校は保護者の悩みを受け止めきれていない、保護者は学校との距離を感じている割合が高まっていると考えている。解消していくには、連絡帳などのやり取りを通して、学校と家庭で日々丁寧に情報共有していく。「分かってもらっているはず」ではなく、しっかりと意思疎通を図っていく。 **「令和4年度学校経営計画及び学校評価」評価（案）について** キャリア教育の清掃検定を受けた人数が大幅に増えた。人権研修は引き続き四條畷市の先生方にも参加を募ってやっていく。防災訓練は新たに J アラート訓練も2月に初めて行った。個人情報：ダブルチェックを行い、ヒューマンエラーを起こさなくしていく。配付プリントを減らし、誤配付を防ぎ、また生じた時に気づける体制が大事。授業力向上チームが機能し、研究授業、研究協議はこの3年間で1番多く行えた。地域支援は事例検討会と、学校に来てもらい授業を見てもらうことができた。次年度以降に繋げていきたい。5番、働き方改革。今年度中に施行できるところは進めていきたい。	

	「令和5年度学校経営計画及び学校評価」(案)について めざす学校像:生徒同士がどう繋がっていくのか、校内での繋がりをもう少し意識した文言に。中期目標は 1.「キャリア教育」、2「安全安心」、3「教員の専門性」で、再構成。 1.清掃検定も高等部全学年、また中学部生徒の体験にということができるようにしたい。 地域連携で、外部講師活用は定着。きょうだい学年は、異年齢との関わりで役割を意識して働く機会を意識した取り組みになるよう指導部に重点事項として依頼。 2.子ども達の人間関係構築能力で、心と体の健康を明確にできるような文言に。人間関係では、学校の6年間で SNS の使い方の指導を系統立ててできるように。自分の心と体のことを理解する、また体力をつけるためにはどうしたらいいか、異性との付き合い方や、自分の障がいの理解を、系統性をもって行っていく。 3.教員の専門性。府の教育センターの支援も得られるよう、パッケージ研修に応募。選ばれれば、学校のフォローもしてもらう。 4.地域支援。外部に研修、公開授業ができたので、そこを広げる。保護者との情報伝達性を高めて繋がっていく。 5.校務の効率化。今年度中にできることが具体的に決まっているので、進み始めている。
	委員からの意見 高塚会長:進路指導とキャリアプランニングマトリクスとの兼ね合い、キャリアプラニングマトリクスを使った授業で、教員がどれだけ発信できるかが大切。ホームページ、ICT 活用での情報発信。単に発信するのではなく、読む保護者の立場になり、発信していけるか。授業内容などの情報発信不足ということもあるだろう。 生徒の回答で、「授業が分かりやすい」「学校が楽しい」は生徒にとって 1 番大切な部分なので、いかに 100%を目指すかだと思う。なぜ 100%にならないのかをしっかり検討していく必要がある。自立活動は特に意思決定支援は非常に大切。どう支援していくかというところが課題。キャリア教育が子どもに合った内容で施されているか。目的・目標に対して、どこまでできているかという評価、そして次の目標ということを、教師がきちんと把握し生徒や保護者に提示できるか。 加藤委員:キャリア教育というのは小中高関わらず、科目等横断的に行っていかなければならない。電子化やホームページの充実は非常に重要。キャリア教育の推進で、清掃活動やきょうだい学年はすごくいいと思うので、ぜひ続けていてもらいたい。キャリア教育、職業教育で、働く以外の生活も、非常に重要になってくる。余暇支援、あるいは家庭での役割など、重度の方でも少しずつできることが増えていく、そういった視点を計画の中にも文言として組み入れていただければ。知的障がいのある方の意思決定をどう支援していくかというのは、重度の方にとっても大変重要な課題。自分自身のニーズに少しでも気づき、それに応じて選択できるような力がついていくことも今後ますます問われていく。細かな計画のところで少し触れていただれければありがたい。センター校として地域の先生方に自立活動について助言や資料、情報提供していけるかということが課題。いま知的発達障がいのある人の就労課題とは職業能力、ハードスキルということに対し、コミュニケーションとか対人関係とかのソフトスキルの問題ということは、すごく大きいと言われている。そこをキャリア教育として捉えていく視点も大事。 北口委員:地域に出ての学習は、寝屋川支援学校に清掃講習に行っている中で、すごく活発になってきた印象がある。特に 1 学期の終わりぐらいに行かせてもらった時と、3 学期の頭に行かせてもらった時と、2年生の同じ生徒だが、目の色が変わっていた。先生方が日々繰り返しやっていくことで、生徒の意識というものが全く変わってくるのだということを目の当たりにした。外部からの刺激は、若い方々にしたらすごくインパクトが強いということを教えてもらったので、どんどん強化してもらえたらと思った。

	杉本委員：キャリア教育を進めてきているとおっしゃっていたが、高等部を卒業した後の事業所での過ごし方みたいなものを踏まえて、体験できるような機会があってもいいのでは。学校だけではなく、いろいろな経験ができるような形で進められれば、社会が見え周りの人が見える、地域を知り限られた人たちだけではないものを知ることになるのではないか。先生方が生き生きと仕事をしていくために、フォローなどをしっかりしていくことで、自分を見てくれていると感じてもらうことが大切 坂田委員： ホームページに関しては、リアルタイムにあげないとみんな見てくれない。プロの研修などの企画があったら絶対参加したい。PTA の教養部主催で、選挙についての研修を行ったが、一般の保護者の参加は少なかった。選挙というものが子ども達にとって必要かという関心の低さが、参加人数に結びついたと思っている。手を繋ぐ会での障碍者基礎年金の研修は参加率が高く、講師の方の説明も分かりやすかった。診断書の書いてもらい方とか、講師の方自身が実際に経験したことを話してくれた。参加された方のアンケートも評価も高く、勉強になった。目標や指標で、重度の子どもが将来に向けてどういう指導を受けているのか、計画しているのか。高等部卒業した後の進路として、生活介護などを選んで進んでいく人が多いのでは。重度の子ども向けの取り組みも具体的に教えてほしい。こういう仕事に向いているなど、少しでも助言をもらえたら、施設見学なども向いている内容をやっている所を探していけるかも。連絡帳通じてでもいいので情報を教えてほしい。参観も重度の子の親からすれば、軽作業などの仕分けなどをしている授業を見たいと思うこともある。実際に自分の子どもがどれぐらい就労的なことができるのか知るためには、そういう授業も見る機会があればいいと思う。
	その他 准校長：府の来年度予算組で、知的障がい支援学校整備のお金について議論があった。資料等もオープンにされている本校に関わること。文部科学省の調査での教室不足調査で、大阪府はワースト1位。そこにお金が必要。それを知事復活予算で認められなかった項目の1つに「四條畷校の本校化」という文言が初めて示された。分校として令和9年まではあることが示されていただけだったが、本校化（小学部含む）を教委として、目ざしていることが初めて明言された。できること、できないことが示されているわけではないが、一定前進。次年度以降、予算議論が進み四條畷校がどうなっていくか決まっていく。デザインもまだで白紙の状態から始めるので単純ではない話だが、計画通りに本校化されることが近い将来あるといい。 高　塚：学校の改造も含めると 1、2 年でできる話ではない。